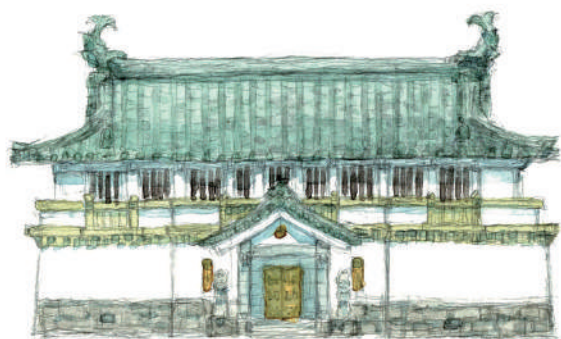


REGISTERED
TANGIBLE
CULTURAL
PROPERTY



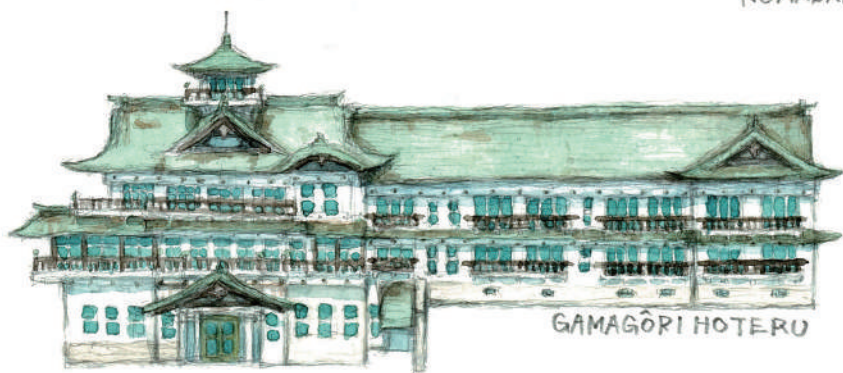
TOKUGAWA BIZYUTUKAN



NOMAYÛ BINKYOKU



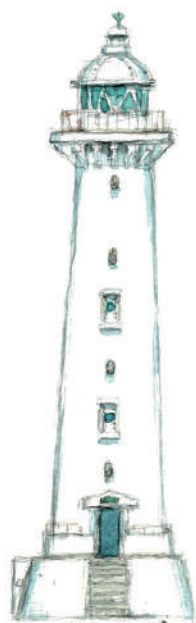
KYÛKAMOGINKÔ



GAMAGÔRI HOTERU

あ い ち の
A I T I N O
た て も の
T A T E M O N O
ま ち の シ
M A T I N O
ン ボ ル 編
S I N B O R U H E N

AGENCY FOR CULTURAL AFFAIRS,
GOVERNMENT OF JAPAN



NOMASAKI TÔDAI

あいちのたてもの

まちのシンボル編

愛知
登文
会



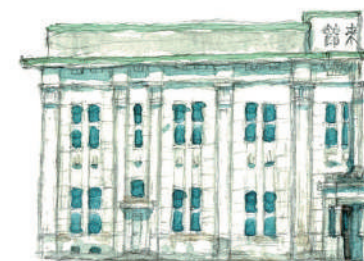
KYÛNAGOYAGINKÔ



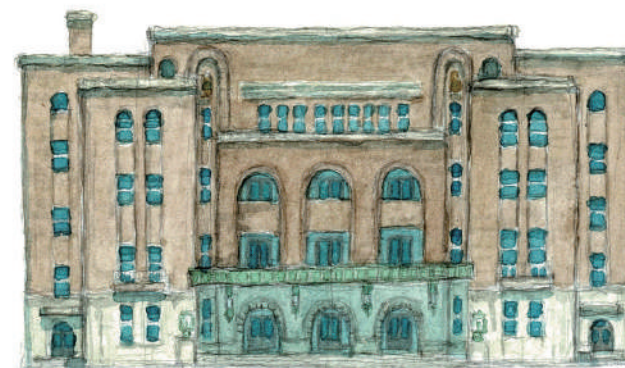
KYÛOKZAKI GIN KÔ



TOYOHASI KÔKAIDÔ



KYÛÔNOGINKÔ



NAGOYASI KÔKAIDÔ

愛知県
国登録有形文化財
建造物所有者の会

あいちの たてもの まちのシ ンボル編

絵と文 村瀬良太



あいちのたてもの
まちのシンボル編

MAP

- | | |
|--------------------------------|----------------------------|
| ① 蒲郡クラシックホテル本館(旧蒲郡ホテル本館) »p.12 | ⑨ 豊橋市公会堂 »p.44 |
| ② 徳川美術館本館 »p.18 | ⑩ 野間埼灯台 »p.46 |
| ③ 小弓の庄(旧加茂郡銀行羽黒支店) »p.24 | ⑪ 犬山城天守 »p.14 |
| ④ 野間郵便局旧局舎 »p.26 | ⑫ 名古屋市庁舎・愛知県庁舎 »p.16 |
| ⑤ 岡崎信用金庫資料館 »p.30 | ⑬ 昭和塾堂 »p.20 |
| ⑥ 大野宿 鳳来館(旧大野銀行本店) »p.32 | ⑭ 名古屋市市政資料館(旧名古屋控訴院) »p.28 |
| ⑦ 旧津島信用金庫本店 »p.36 | ⑮ 鶴舞公園 »p.42 |
| ⑧ 名古屋市公会堂 »p.40 | ⑯ 名古屋テレビ塔 »p.48 |

はじめに

はじめる

私たちのまわりには、
古めかしい洋館や、立派なお屋敷、歴史のある校舎に、
清楚な神社、荘厳な寺院や、可愛らしい教会、
そして大きなレンガの工場に、役割を終えた電波塔など、
年月を重ねた建物がごく自然にまちにとけ込んでいます。
そういった文化財として貴重な建物を、国登録有形文化財といいます。
日本には他にも、重要文化財や国宝などに指定された建物があり、
現在その総数は、1万6000件に上ります。
市指定・県指定のものを含めると、さらにその数は増えますが、
一方で、フランスの規定する歴史的記念物の4万6000件には遠くおよびません。
日本は文化的には、まだ発展途上なのです。

本書は、愛知県にある国登録有形文化財を中心とした
文化財建造物の魅力を紹介する本です。
今回は「まちのシンボル編」として、近世から近現代にかけて建てられた、公会堂など
の公共施設、またホテルや銀行、灯台など、多様な建物を取り上げています。
それらはすべて、あたりまえに残ってきたわけではありません。
多くの人々の努力で残されてきたものも少なくないのです。
そういった意味では、残された建物はすべて価値のある良い建築といえます。
そんな身近にある良い建築を知ること、
私たちのまちとその風景を大切に思う気持ちにつながってほしいと思います。
パリの美しい街並みも、フランスの人々がその重要性に気がつき、
建物と景観を大切に保存するまでに、多くの経験を積んできました。
この本が、建物とまちの歴史を知る一助になることを願っています。

もくじ

はじめに	2
愛知の建物、まちのシンボル編	4
【コラム】建物を楽しむために	10
◆和風のシンボル	11
蒲郡クラシックホテル本館(旧蒲郡ホテル本館)	12
【国宝】犬山城天守	14
【重要文化財】名古屋市政資料館と愛知県庁舎	16
徳川美術館本館	18
【昭和塾堂】	20
【コラム】帝冠様式	22
◆洋風のシンボル	23
小弓の庄(旧加茂郡銀行羽黒支店)	24
野間郵便局旧局舎	26
【重要文化財】名古屋市政資料館(旧名古屋控訴院)	28
岡崎信用金庫資料館(旧岡崎銀行本店)	30

大野宿 鳳来館(旧大野銀行本店)	32
【登録文化財で昼食を】	34
津島市観光交流センター(旧津島信用金庫本店)	36
【コラム】建築家 鈴木禎次	38
◆新しいシンボル	39
名古屋市公会堂	40
【登録記念物】鶴舞公園	42
豊橋市公会堂	44
野間埼灯台	46
【重要文化財】名古屋テレビ塔	48
飯田喜四郎先生特別インタビュ	50
「帝冠様式に思うこと」	51
あいちのたてもの博覧会	52
国登録有形文化財とは	52
愛知県国登録有形文化財建造物所有者の会とは	52



愛知の建物、 まちのシンボル編

はじめに

巷にあふれる旅行雑誌やガイド本には、まちのイメージをかたちづくる建物が必ずといっていいほど登場します。それらの建物は、まちの歴史や文化、あるいは時代を象徴する、そのまちのシンボリックな存在です。

この冊子では、そんな建物のうちでも、登録文化財を中心に取り上げ、歴史的背景と魅力について紹介しています。

また、まちのイメージに繋がる建物のデザインは、建築の歴史と深く関わっています。例えば、市役所の屋根が城郭の天守風になっていたりと、裁判所

や銀行が西洋建築のような外観になっているなど、シンボリックな建物のかたちには、そこにつながる歴史的な背景があります。

ここでは、そんなデザインの背景を紐解き、その変遷をたどりたいと思います。

和風の屋根

日本の建築を特徴づける大きなポイントに、屋根のかたちがあります。例えば、神社の社殿の屋根にのる千木や棟の上に並ぶ堅魚木は、古代の王の住まいをあらわすシンボルがデザインとして受け継がれたものと考えられています。

また瓦が葺かれた寺院建築も特徴的な屋根をしています。大きな屋根の棟先には鴟尾がのり、軒先がすつと反っている姿は日本独自の美しさです。とりわけシンボリックな存在の五重塔は、2500年前に入滅したブツダの遺骨を収めたストウパーという塚が原型となっています。最初はストウパーの頂上の小さな傘だったものが、徐々に大きな屋根になり、や

がて中国で五重塔へと姿を変えました。

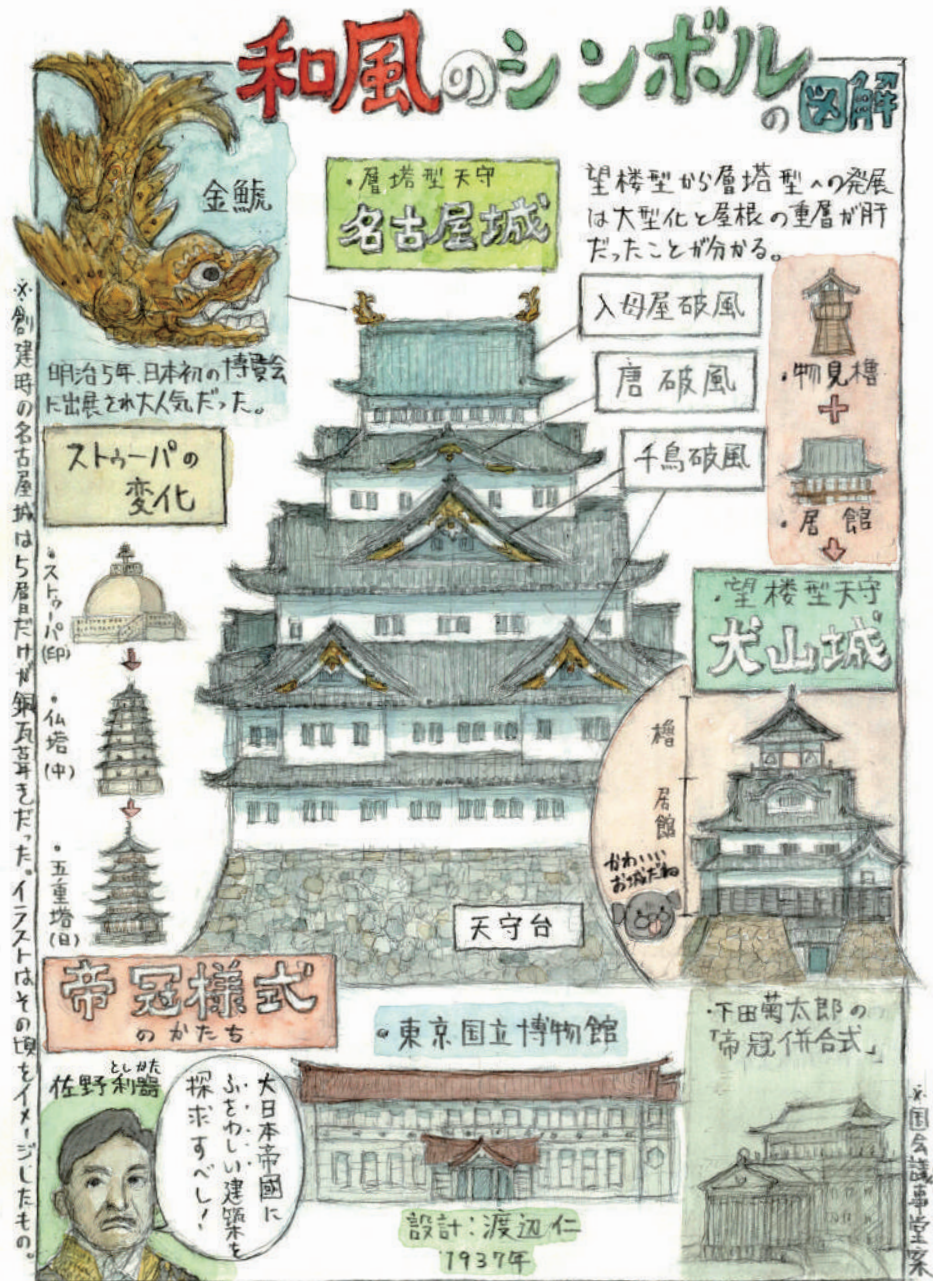
天守と屋根

日本の建築の中でも特に印象深い屋根は、城郭の天守です。高い石垣の上に千鳥破風や唐破風が重なる華やかな外観は、まちの中でもひととき目を引く存在です。また屋根の頂上にいるシャチホコも重要な装飾の一つです。

屋根が重層する天守の登場は16世紀の初頭に遡ると考えられ、入母屋屋根の上に楼閣をのせた形状から「望楼型天守」と呼ばれています。犬山城天守はこの形式を残す日本で最古の天守です。

また、望楼型天守は織田信長が建設した安土城で大きく進歩したと考えられ、記録に残る華やかな天守の姿は、室町時代の鹿苑寺金閣などの楼閣建築に原型を求めることができます。

天守はその後、名古屋城や姫路城のような「層塔型天守」が誕生し、より高くて豪壮な姿は城下町のシンボルとなりました。



帝冠様式

これら日本建築の屋根のかたちが再び注目されたのは大正時代になってからで、明治以降に導入された西洋建築に代わる新しいデザインとして和風が求められたことに起因します。そのはじめは、大正4年の明治神宮宝物館のコンペと考えられ、和洋折衷のデザインは審査員の伊東忠太らによって推し進められました。

それが、名古屋城天守の屋根のかたちを模した名古屋市庁舎や愛知県庁舎、蒲郡クラシックホテル本館へつながり、また中国的な雰囲気漂う徳川美術館本館や寺院建築の意匠に範を求めた昭和塾堂のような建物のデザインを生み出す背景ともなりました。

これら和風の屋根が洋風の建物にのせられたデザインを「帝冠様式」と呼ぶこともあり、当時の日本が軍国主義を推し進めて東アジアを席巻し、世界の強国として頭角を表してきた時代の気分もあらわれています。

洋風のかたち

それより少し時代は遡って、江戸時代の終わりから明治にかけての日本は、先進的なヨーロッパ文明に追いつくため、さまざまな文物を盛んに取り入れました。その中でも洋風建築は、当時の町並みで異彩を放つ文明開化のシンボルでした。

そんな洋風建築ですが、本格的な西洋建築が導入される以前には、長崎や横浜、神戸などの居留地の洋館を真似た擬洋風建築が最初に広まりました。それらの多くは、大工によって設計されたため、洋風と和風が混ざり合った不思議なデザインをしています。擬洋風のデザインは、その後も長く残り、小弓の庄や野間郵便局旧局舎にその姿を見ることができます。

本格的な西洋建築とオーダー

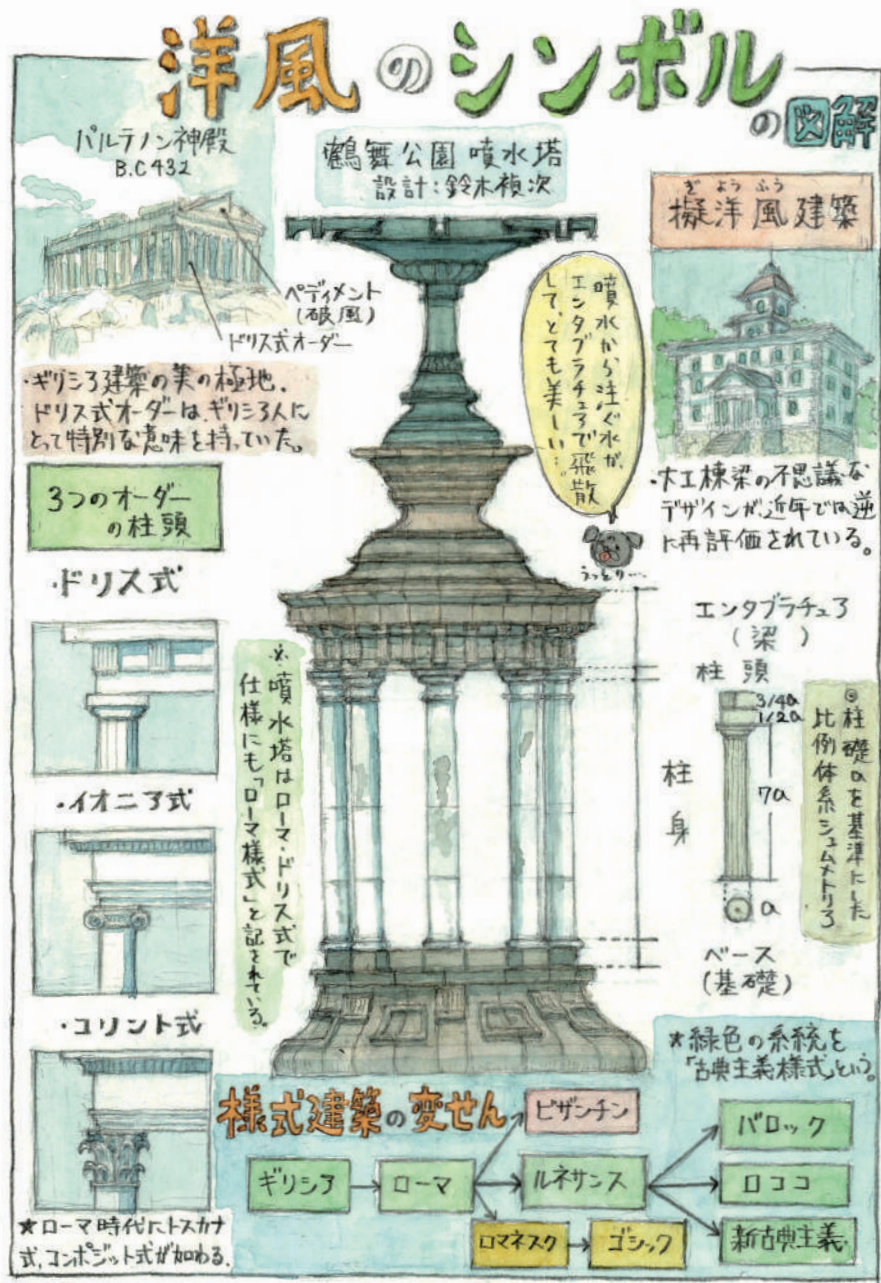
一方、明治10年に工部大学校（後の帝国大学。現在の東京大学）にイギリス人建築家のジョサイア・コンドルが就任したのを皮切りに、各省庁の招きでヨー

ロッパの建築家たちが来日し、本格的な西洋建築が伝えられました。

ところで、西洋建築の源流はギリシア建築に遡ります。中でも、柱と梁が均整のとれた姿になることを探求した「オーダー」と、その上にのるペディメント（破風）の組み合わせは重要なデザインの基点になります。

オーダーは、ドリス式とイオニア式、コリント式の3つの柱頭飾りに分けられ、また円柱の直径から全体の大きさを決めるシュムメトリアという比例の体系もつくり出されました。それら探求された美の到達点が、ユネスコのマークの元になったパルテノン神殿です。

ギリシア建築のオーダーは、その後ローマ建築に受け継がれ、ヨーロッパ各地に広がり、コロッセオなどの巨大建築の装飾として用いられました。またローマ帝国崩壊後は、ビザンチン建築やロマネスク建築などに変容を遂げ、後者はゴシック建築を生む素地となりました。



ルネサンス建築と様式の誕生

15世紀のイタリアのフィレンツェで、ローマ建築を調査・研究することでオーダーが再解釈され、ルネサンス建築が誕生します。この様式がヨーロッパ各地へ広まり、国や時代によりバロック様式や、ロココ様式、新古典主義様式などを生み出し、発展を遂げました。

帝国大学を卒業し、ヨーロッパに外遊した建築家鈴木楨次は、鶴舞公園噴水塔や岡崎信用金庫資料館をルネサンス様式にのっとったデザインで設計しました。また名古屋市政資料館は、ドイツの建築家エンデとベックマンが伝えたネオ・バロック様式の流れを汲む建築です。

その一方で、明治後期ごろからは、それら様式建築にヨーロッパで新たに登場したセセッションやアール・デコなどを混ぜ合わせたデザインがあらわれ、大野宿鳳来館や津島市観光交流センターにその姿を見ることが出来ます。

新しい技術と新しいかたち

18世紀のヨーロッパでは、産業革命と共に発展してきた蒸気機関に合わせて、鋼材を用いた技術が急速に発達してきました。鉄道はその象徴ともいえる存在で、川を渡る鉄橋の建設は、後にエッフェル塔のような高層建築の誕生を促しました。

また同じ頃には、新しいセメントの開発や、コンクリートと鉄筋の骨組みを混ぜ合わせた鉄筋コンクリートの技術が登場し、徐々に建築へも応用され始めていました。それら新技術がもたらした最大の特徴は、建物の大きさでした。

そんな新しい技術の登場で、様式建築は次第に時代にそぐわないデザインとみなされるようになり、それに変わる新しい様式がヨーロッパ各地で探求され、さまざまな芸術運動として花開きました。

名古屋市公会堂は、ドイツで登場したポリウム感のある表現主義に倣ったデザインで、豊橋市公会堂はアメリカで流行したスパニッシュ様式とネオ・ロマネスク様式のデザインが取り入れられています。

いずれも新しい様式を取り入れつつ、鉄筋コンクリートや鉄骨などを用いた大規模な建物が、新たなまちのシンボルとして建てられました。

おわりに

古来より、まちのシンボルとなるような建物には、二つの側面がありました。一つは権威の象徴として、もう一つは信仰の象徴としてです。

戦後、集約電波塔の機能と観光タワーの目的で建設された名古屋テレビ塔は、そんな従来の枠を超えた新しいまちのシンボルとして、東京タワーや通天閣などの建設を牽引しました。

また近年、戦後に建てられた近現代の建物と合わせて、野間埼灯台のような土木構築物についても評価が高まっています。

建物には、そんなまちのシンボルとしての資質が備わっていて、今もその価値が見出されるのを待っています。

新しいシンボルの

の

★鉄とコンクリートが新しい建築の時代を切り拓いた

パリのエッフェル塔

1889年のパリ万国博覧会で建てられたエッフェル塔は、鉄橋の技術も応用した画期的な建物だった。



設計者 G・エッフェル

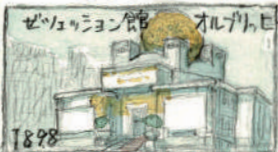
新しい様式たち

ドイツ表現主義

ドイツ工作連盟博覧会 劇場
V・D・ヴェルト



1914



1898

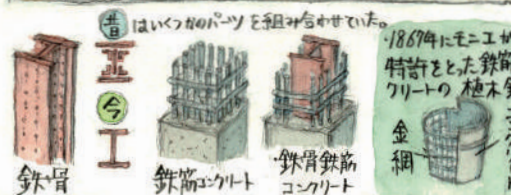
・アール・デコ



1930

★この他に未来派やデスティーユなども登場し、インターナショナルスタイルへの道を開いた。

鉄骨と鉄筋コンクリートと鉄骨鉄筋コンクリート
RC SBC



鉄骨

鉄筋コンクリート

鉄骨鉄筋コンクリート

金網

1867年にモニュメントの特許をとった鉄筋コンクリートの植木鉢

金網

コンクリート

←2020年、地表スレスレに設置された防災装置（ハロワート工法）

名古屋テレビ塔は難しい条件をデザインに昇華させた純粋に構造と機能に則った美しいモダンな建造物なのだ！



名古屋テレビ塔